

はぐくむ光のびる若芽

(142)

五ノ神 最上光衛

「子はかすがい」とはよく言ったもので、長い間子どもに恵まれなかつたわが家にとって、長男憲仁の誕生は、家族の心を幸福な気持ちにさせてくれるものでした。長男が初めて歩き始めた時、初めて言葉らしきものを話すようになった時、その度に私達夫婦は新鮮な感動を覚えたものです。子どもが成長していく過程を見ることは、親にとって、とてつもなく楽しく生きがいにもなるのだといふことが、子どもを持つて初めてわかりました。

その長男も今年には2年に進級しますが、明るく元気な子に育っています。わがままで臆病な面があるのは、小さい時から周囲がちやほよと構い過ぎた為かと反省し、今軌道修正しているのですが、なかなか親の思うようにはいきません。ただ、今

年の町の新春マラソン大会には、仲良しの友達に刺激されたらしく、自分から、

「僕も出る。お父さん、一緒に走ろうよ。」と言いついて参加できたことはうれしいことでした。次男裕希も誕生し、最近では弟の面倒も少しづつ見られるようになって

スキンシップ作戦で「交流」



つてきたようです。

私も妻も勤めているので子ども達と接する時間が少ないのですが、夜一緒に入浴した時などに、学校や保育園での出来事を聞いたりして、できるだけ交流を図るようにはしています。次男が保育園で覚えてきた歌を湯船の中で聞くことも楽しみの一つです。妻もスキン

シップ作戦で、何かあると子どもの顔にキスしたり、抱きしめたりしていることがよくあります。長男などはうれさがつていますが、それでも結構うれしそうにしています。また、妻と長男、次男の二人でバタバタ、キヤーカー言いながら、部屋から部屋へと追いか

けっこをしていることもあります。少々うるさいのですが、妻なりの貴重な「交流」の仕方と解釈し、大目に見ています。一人の子どもに恵まれ、私は今、この上もなく幸せです。子どもたちには、体も心も健康に育ってほしいと願っています。



乳幼児には危険がいっぱい

出血や骨折したときの応急手当の方法は?

転落や転倒に出血はつきものです。たいていの出血は傷口に清潔なガーゼを当

てて圧迫すれば止まります。血が止まりにくい場合や、その量が多い場合は救急車を呼んで下さい。一度に体内の血液の3分の1以上を失うと、生命に関わることもあります。

骨折した場合は、折れた部分動かさないように、副木(添え木)を当てて固定し、病院(整形外科)へ連れていきます。副木は、身のまわりにある板や棒、ダンボール、雑誌などで十分代用できます。しかし、ひと目で変形がわかるような骨折の場合は、むしろ応急手当をしないほうがよいで

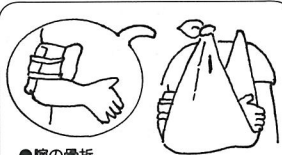
しょう。骨折部分が動かさないように注意して病院へ連れていって下さい。

●こんな症状があれば骨折を疑おう

骨折したかどうかは、なかなかわかりにくいものです。こんなときこそ落ち着いて子どもの様子を観察してください。もし、①いつまでも痛がって泣く②打ったところが動かせない③はれたり、青黒くなる、などの症状がみられたら骨折が疑われます。できるだけ、早めに医師の診察を受けましょう。

骨折したときの応急手当

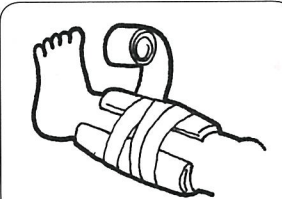
副木の当て方



●腕の骨折
脇の下にタオルをはさみ、腕の外側に副木を当てて固定する。動かないように、首から三角巾(なければスカーフなど)でつる(指先がひじより上になるように)。



●ひざの骨折
ひざを曲げたままの状態です。ダンボールや板などの副木を当てて固定する。

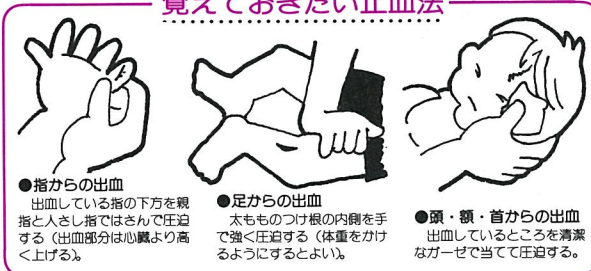


●足の骨折
週刊誌や新聞紙などで足を巻いてガムテープで止める。



●指の骨折
指から手の甲にかけて鉛筆やわりばしなどを当てて、ばんそうこうや包帯で止める。

覚えておきたい止血法



●指からの出血
出血している指の下方を親指と人差し指ではさんで圧迫する(出血部分は心臓より高く上げる)。

●足からの出血
太もものつけ根の内側を手で強く圧迫する(体重をかけるようにするとよい)。

●頭・顔・首からの出血
出血しているところを清潔なガーゼで当てて圧迫する。